

みんなでほっとミーティング（令和8年4月）報告書

開催日時	令和8年4月12日（日）午前10時から11時30分まで	
開催場所	城南会館 ホール	
参加市民	8人	
出席議員	肝付隆治（議長） 野瀬貴則（副議長） 山本治兵衛（議会運営委員会委員長） 小谷繁雄（広報会議副委員長） 尾関善之（自民党鶴政クラブ議員団） 眞下弘明（新政クラブ議員団） 仲井玲子（超党・市民ファースト議員団） 杉島久敏（公明党議員団） 小西洋一（日本共産党議員団）	合計9人
内 容		
<p>【全体概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会（副議長が司会進行） 2 開会挨拶（議長） 3 実施要領説明（副議長から当日の内容と進め方を説明） 4 3月定例会の概要説明（議運委員長から3月定例会の概要を説明） 5 3月定例会に関する質疑応答 6 3つの班で意見交換（テーマ：将来にわたって誰もが住みやすいまちとするためには、どのようなことが必要か） 7 各班の意見交換内容の共有（各班から報告） 8 全体での意見交換（各班の報告を踏まえて全体で意見交換） 9 閉会挨拶（議長） 10 閉会 		
<p>【3月定例会の概要報告】</p> <p>《議会側からの説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議した議案の内容や議決結果を説明（市長から提出された議案、委員会・議員から提出された議案、賛否が分かれた議案等） <p>《質疑応答の概要》</p> <p>Q. 福知山市や綾部市は、当初予算に災害用資材（段ボールベッド等）の調達を明記しているが、舞鶴市には見当たらない。なぜか。[参加者]</p> <p>A. 舞鶴市は、令和7年度の補正予算等で先行して備蓄や資機材の整備を進めている。会計年度の違いにより当初予算には現れていないが、整備は進んでいる。 [山本委員長]</p> <p>Q. 福知山市などは、備蓄品の種類や有効期限まで市民に公開し、誰でも見ることができる状態にある。舞鶴市は「プッシュ式」としているが、どこに何があるか見えない。この不透明さが不安を呼んでいる。[参加者]</p> <p>A. 消防資料等で一部公開はしているが、視認性が低い。「見えない」という指摘を受けたことを重く受け止め、公開方法を改善すべき点として持ち帰る。 [山本委員長]</p>		

Q. 北陸新幹線について、7月のルート決定を控え、300万円以上の税金が誘致活動に使われる予算となっている。誘致の現実味はあるのか。議会の中でも足並みが揃っていない。各会派の考えを聞きたい。

A①. 誘致には賛成の立場。ルート決定までの期間が短く、7月には決定すると聞いているものの、精一杯7月まで誘致活動を進めていく。〔尾関議員〕

A②. 誘致には賛成の立場。ルートの決定は国が行うことであるが、できるだけ舞鶴市内を通るルートをお願いしたいと運動しており、残り短い時間であっても頑張る要望を続けていくしかない。〔杉島議員〕

A③. 誘致には賛成の立場であるが、舞鶴市単独で取り組むのは厳しいため、京都府北部の5市2町と連携・協力して一緒に取り組んでいく必要がある。〔眞下弘明議員〕

A④. 誘致には賛成の立場。新幹線誘致は、舞鶴市だけの問題ではなく、日本全体の課題である。日本のGDPの約8割が太平洋側に集中しているため、大地震などの有事の際に東西の連携や物資の輸送が途絶えないよう、日本海側の国土軸を作るべきである。また、重要港湾である舞鶴を通ることは、日本の成長のためにも必要である。〔仲井議員〕

A⑤. 一貫して反対の立場をとっている。小浜ルートでさえ当初の計画から予算が膨らみ5兆円を超えること、これ以上の新幹線整備は環境問題の観点から不要であること、子どもたちに将来の財政負担を背負わせるべきではないことなどから反対している。〔小西議員〕

Q. 医療機能再編に向けた基本合意後の検討開始から7ヶ月経過しているが、進捗が見えない。医療の現場は、看護師が離職などで危機的状況だ。スピード感が足りないと思う。意見があれば聞きたい。〔参加者〕

A①. 市長に対し早期の市民説明会開催を求めているが、現状、明確な回答を得られていない。市民の中に不安があるというのは、おっしゃるとおりだと思う。〔小西議員〕

A②. スピード感を持って取り組んでいただくことは当然だと思っているが、設置者が異なるため、京都府等の関係機関も含めて、調整に時間を要していることは事実である。注視と確認を継続する。〔尾関議員〕

Q. 日本板硝子のデリケートな報道（5,700億円超の負債、上場廃止懸念）によって、舞鶴の基幹産業が揺らぐのではないかと危機感を持つべきだ。若者が帰って来られる経済構造をどう作るのか。〔参加者〕

A. 日本板硝子の状況や雇用の問題については、議会としても現状をしっかり受け止めており、働き先の確保が不可欠であることは議員全員が共通して認識している。働き先については、議会の一般質問等でも取り上げられており、新たな工業団地を作るべきではないかといった意見も出ている。〔野瀬副議長〕

【意見交換の概要】

《1班の意見交換の概要》

◇ 広報・情報発信の強化

市の広報のあり方が弱くなっているという指摘があった。例えば、厚労省が出している「医療情報ネット」のような全国の医療関係情報が市民に伝わっておらず、広報のあり方について意見してほしいという要望が出された。

◇ 防災と要支援者対応

大規模災害時に、要支援者や要介護者をどのように避難させるかについて、実効性のある体制づくりがまだできていないのではないかと懸念が示された。

◇ 地域コミュニティの維持

地域コミュニティの必要性が第一であるものの、役員のなり手不足などが深刻であり、行政や議会が真剣に立て直しに取り組むべきだという意見が出た。実際

に地域の防犯の組織がなくなった地域もあり、不安の声が上がっている。

◇ 若者の定着と企業誘致

若者の定着には雇用を生み出すしかなく、市の企業の状況把握が不足しているのではないかと。また、企業誘致に際しての課題についても、行政がどう受け止めているかを議会がしっかり聞いていく必要があるといった意見があった。

◇ その他の市政課題

自治会などの業務協定のあり方、2040年を見据えた次期総合計画への市長の実質的なビジョンの反映、市内からの企業の撤退問題などについても懸念や意見が出された。

《2班の意見交換の概要》

◇ 「広報まいづる」の改善

年代によって情報収集の手段は異なるが、高齢者は「広報まいづる」を見ることが多いものの、写真が大きすぎて情報量が少ないため、もっと情報を載せてほしいという要望があった。

◇ 工事等の進捗状況の周知

東舞鶴の駅前工事が遅れていることなどについて、市民は工事が止まっていると不安になるため、延期などの状況を広報でしっかり伝えてほしいという意見が出た。また、工事の看板が放置され内容が不明になっているとの指摘もあった。

◇ 市役所の窓口対応と姿勢

市役所の窓口対応が「事務的で冷たい」という意見が寄せられた。また、市が「日本一働きやすい市役所」を掲げている一方で、市民側からは「市民ファースト」が感じられないという厳しい意見もあり、市役所内部だけでなく、市民に対しても市民ファーストの姿勢をしっかりと示してほしいとの要望があった。

《3班の意見交換の概要》

◇ 経済の好循環と雇用の創出

若者が都会へ出て舞鶴から離れてしまう状況を改善するためには、何よりも「経済を良くすること」が前提条件になるという議論が中心となった。海や港などの特性を生かしたまちづくり、新しい企業の誘致、そして、人を呼び込む仕組みづくりによって仕事（雇用）を増やし、経済の好循環を作ることが重要とされた。

◇ 一次産業（農業）の振興

新しいことばかりを進めるのではなく、これまで築いてきた大切な農業などについてももしっかり取り組むべきだという意見が出された。小規模な家族経営だけでなく、営農法人化を進めるなど、全体として収益を上げる仕組みを作ることが大切だという点にまとまった。

◇ 情報発信と分かりやすさ

自ら調べに行かないと情報が分からないのではなく、市民がすぐに受け取れるような情報発信が必要だという意見があった。また、今回の議会報告の資料についても分かりにくい点があったため、今後の改善を求める声が上がった。

《全体での意見交換の概要》

□ 赤れんが関連やクルーズ誘致などにお金がかけているが、費用対効果を考えたときに、効果のほうが上回っているのか。また、以前、市の担当者に提案したものの、全く動いていないこととして、舞鶴にある「関西電力」「日本板硝子」「港湾」の3つを連携させ、カーボンファイバーに近い新素材を製造するという新産業創出・企業誘致について考えてほしい。[参加者]

▷ 市としては、おそらく、「民間企業が関わる部分が大きい」という回答になると思われるが、方法の1つとして、議会内でも共有したい。[野瀬副議長]

- 学校の統廃合に関して、市長の定例会見において、市長は、教育長のほうが詳しいとの理由で、説明を全て教育長に任せたことが不快であった。学校の統廃合という子供たちや地域にとっての重要課題であるため、まず市長が十分に理解し、記者からの質問に対して、詳細な部分は教育長が答えるというのが本来のやり方ではないかと疑問に思う。また、議会でも指摘されていたが、図書館のように、ある程度の計画ができてからいろいろな意見が出てくることのないように、地域、先生、保護者などからきめ細やかに聞き取りを行って結論を出していただきたい。統廃合ありきで進まないように、議員の皆さんもサポートしていただきたい。〔参加者〕
- ▷ 学校の統廃合については、議員の中でも積極的にすべきとの意見の人は1人もいないと思っており、慎重に行ってほしいということを常々皆さんが言っている状況である。拙速に進められることがないように、しっかり見ていきたい。〔野瀬副議長〕

※ アンケートに記載いただいた質疑・意見とその回答は、別紙に取りまとめています。

【総括】

今回も、3つのグループに分かれて意見交換を行い、各グループの意見交換の内容を共有した上で、最後に全体での意見交換を行う方式とし、多くのご意見をお聞きすることができた。

意見交換を通じて、主に以下の点が課題として示されたと考える。

《「見える化」による不安解消》

災害用備蓄の詳細公開や工事状況の透明化など、市民の不安に寄り添った情報開示の質的向上が必要である。

《広報・窓口の「ユーザー視点」への転換》

一方的な情報伝達から、市民が真に必要なとする情報やサービスを届ける「市民ファースト」の行政文化への転換が必要である。

《実効性のある経済・教育ビジョンの提示》

現在の状況を踏まえた企業誘致や産業支援、地域コミュニティとも深く関わる学校の統廃合に対して、市民合意に基づいた進め方のランドデザインが必要である。

これらは、代表・一般質問や、常任委員会による調査にもつながる貴重なご意見として、議会において共有する。

次回以降も、より良い意見交換の場となるよう改善や工夫を重ねながら、毎定例会の翌月（次回は令和8年7月開催）を目途に、継続的に開催する。

なお、さらに多くの市民の皆様にご参加いただき、意見交換ができるように、周知・広報に努めることとする。